

「学研・高大教育フォーラム2019」ニュース vol2.

8月3日(土)・4日(日)に開催する。『学研・高大教育フォーラム2019』も6月1日の申し込み開始まで、あと一か月余りとなりました。

今回は、高校の部でご登壇いただく先生方と演題をご紹介します。

○高校の部(10:10~16:30)

◆実践レポート

- ・「主体性と向き合った4年間を振り返って」
後田康蔵先生(長崎県立諫早高等学校進路指導主事)
- ・「洗足学園の平成—学校改革30年—」
田中友樹先生(洗足学園中学高等学校教頭)

＝「実践レポート」では、生徒の主体性を育むべく、学校を挙げて様々な取り組みを行ってきた、長崎県立諫早高校の後田康蔵先生と、国内大学のみならず、海外への大学にも挑戦する生徒を育てるための教育を行ってきた、洗足学園中学校の田中友樹先生にお話いただきます。

◆高校現場からの報告

- ・「自立した書き手の養成～書かせる工夫と書いたあとの指導～」
鈴木勝博先生(岩手県立大東高等学校校長)
- ・「実践：知識構成型ジグソー法～大学入試改革の風」
畑文子先生(埼玉県立大宮高等学校進路指導主事)

＝「高校現場からの報告」では、テキスト『唸る小論文』を作成し、多くの生徒の小論文指導を手がけてきた、岩手県立大東高校の鈴木勝博先生と、知識構成型ジグソー法の実践について、埼玉県立大宮高校の畑文子先生にお話いただきます。

◆パネルディスカッション

- ・「高大接続をどう地域と結びつけるのか」
千葉栄美先生(青森県立青森高等学校教頭)
- 上村和弘先生(三重県教育委員会 事務局 教育政策課長)
- 田中伸二先生(広島市立美鈴が丘高等学校校長)

高大接続改革が叫ばれているなか、高校現場はどう、大学および地域と結びついていけばいいのか、三人の先生方の実践を元に議論いただきます。